

# いつでも、どこでも起こりうる大地震 「地震大国」日本に、原発はムリ！

1月1日に起きたM7.6の能登半島地震は、震度7の激震と津波で大きな被害をもたらし、いまだに多くの方が避難を余儀なくされています。亡くなられた方の冥福を祈ると共に、被害にあわれた方からお見舞い申し上げます。

今回の地震で動いた断層は、予想よりもはるかに長い150キロにもおよび、地面が4メートルも隆起したところもあります。木造住宅の多くが破壊され、道路はあちこちで寸断されました。私たちが暮らしているのは、いつでも大地震が起きてても不思議ではない世界一の地震大国だということ、またしても思い知らされました。

## 変圧器から大量の油漏れ 電源の半分以上を失った志賀原発

地震が起きた能登半島の中ほど、日本海側にあるのが、北陸電力の志賀原発です。2基の原子炉は、東日本大震災で福島第一原発がメルトダウンをした2011年から止まったままです。地震の直後、北陸電力は、志賀原発には大きな被害はない、問題ないと発表しましたが、実際には、3系統・84万1,000ボルトの電源の半分以上の50万ボルトを失うなど、大きなダメージを負っていました。変圧器の油が約2万リットルも漏れ、一部は海に流失。使用済み燃料プールから水が溢れ、取水槽の水面は、津波によって3メートルも変化していました（後で訂正して発表）。敷地内にも段差や亀裂ができ、原発事故の時に避難する計画だった道路は、11の路線のうち7つの路線が通行止めになってしまいました。

地震が起きる直前の昨年11月、経団連の十倉会長は、志賀原発を視察して「一刻も早く再稼働できるよう心から願っている」とハッパをかけましたが、もし再稼働して運転中の地震だったらと思うとゾッとします。

## 地震が続いていても 再稼働させようとしていた

志賀原発の原子炉の真下の断層は、専門家の調査で「活断層の可能性を否定できない」と判断され、

【裏面につづく】



全造船関東地協労働組合  
よこはまシティユニオン

〒230-0062 横浜市鶴見区豊岡町 20-9-505  
TEL&FAX 045-575-1948  
E-mail yuniyoko@d2.dion.ne.jp



志賀原発は再稼働できない状態でした。ところが原子力規制委員会は、敷地内に活断層はない、と判断を変え、再稼働に向けた審査を進めています。能登半島では、大きな地震も含め、何年も前から地震が続いていたにもかかわらず、です。

震源に近い珠洲市には、巨大な原発を作る計画までありました。今回の地震で道路がズタズタになり、避難することも救援に駆けつけることもままならなくなった能登半島の先端にさえ、「大丈夫」と言って原発をつくり、動かそうとしていた、これが日本の原子力政策の恐ろしさです。

## 原発を止めることこそ 地震や自然災害に備える道

自然災害は、原発をよけて起こってはくれません。東南海地震など予想されている巨大地震だけでなく、地震が起こった後に断層があったことが

わかることも珍しくありません。送電線や道路網、通信網などのインフラの破壊が重なれば、原発事故の被害がどこまで拡大するのか、予想することもできません。地震の活動期と言われる日本で、原発を稼働させることがいかに無謀なことか、能登半島地震は教えてくれています。

いますぐ日本のすべての原発の稼働を止めることこそが、これからも予想される大きな地震や自然災害に備える道です。 【組合員 N】



### ■ 故長尾光明さんの闘いを胸に

よこはまシティユニオン組合員の長尾光明さん（故人）は福島第一原発で働き、被ばくが原因で退職後に多発性骨髄腫（血液のガン）を発症し労災認定されました。損害賠償を求めて東京電力を相手に裁判を起こしましたが、東電は労災認定はおろか病名すら否定。裁判所も長尾さんの請求を棄却しました（最高裁 2010 年 4 月）。

### ■ 原発で働く労働者と共に闘います

原発は電力会社を元請とした 4～8 次の下請会社で稼働しています。3.11 以降、多くの労働者が福島第一原発の収束作業に関わり、被ばくを余儀なくされています。東電福島第一原発の収束・廃炉作業や九電玄海原発の定期検査に従事し、被ばくが原因で白血病になったあらかぶさん（40 代男性）は 2016 年 11 月 22 日に東京電力と九州電力を相手に損害賠償を求めて提訴し闘っています。

第 23 回口頭弁論は 3 月 13 日（水）13:15～東京地裁 101 号法廷で行われます。ぜひ多くの皆さまの傍聴支援をお願いします。

### ■ 職場の問題、いつでもご相談を！

東日本大震災や原発事故を忘れないため毎月 11 日に街頭宣伝活動を行っています。労働組合としてできる事は何かをいつも考えています。「福島どころじゃない」「自分の仕事と生活が大変」という方もいるでしょう。そんなあなたこそ、あきらめる前に一度ぜひ職場の問題をユニオンに寄せてください。一緒に解決しましょう！